



414
A2041



目錄

- 一 卷 議 試 稿 田 通
- 一 報 告 書 一 段
- 一 右 全 表 十 冊
- 一 岩 府 縣 地 租 改 正 紀 要 一 段
- 一 地 租 改 正 例 規 沿 早 一 段

地租改正報告書

大正十一年四月
候爵郵寄

2849



市川

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

重信謹テ言今ヤ地租改正ノ業畧整頓ニ至レリ
 因テ報告書一篇ヲ綴録シ其成績ノ顛末ヲ擧ケ
 以テ閣下ノ高覽ニ供ス伏テ以ミルニ明治六年
 七月地租改正法ヲ頒布セララル其
 上諭ニ曰賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカ
 ラシメント蓋其事ノ美其業ノ大千古未曾有ノ
 盛典タル固ヨリ讚述ヲ俟タス然而我國財政從
 來地租ヲ以テ基本ト為ス故ニ其輕重盈縮ハ乃
 國威ノ張弛ニ関シ民生ノ安危ニ係ル慎マサル
 可シヤ重信之ヲ地租改正事務局總裁ニ承ケ專
 ラ此事ヲ幹理ス日夜思フ
 聖慮ノ在ル所此ノ如ク其レ深遠ナリ專ニ

奉體^豈鞠躬盡力^一答^ニハサル可^ニヤト
幸ニ各地方官及ニ局員ノ力ニ據テ茲ニ功ヲ奏
スルニ至レリ^一其田畑宅地ノ反別若干地租若
干山林原野及雜種^{未成ノヲ除クハ姑}ノ反別若干
地租若干總計反別若干地租若干トス允此反別
租額ハ各地ニ就テ詳細調査セシクルモノニシ
テ要其適當ヲ得タルハ重信ノ自ラ信認スル所
也抑該法頒布ヨリ今ニ至ルマテ七閱年ニシテ
其實地整理ノ際各地方貫習ノ異ナル民情ノ同
カラサル盤根錯節筆墨ノ能ク名状スル所ニ
ラス且西南暴動ノ如キ一時民心ヲ惑乱シ其影
響スル所談事業ヲ障碍セシ^一亦尠カラス而此
僅々年間ニ於テ能ク成業ニ至ルヲ得モノ固ヨ

リ法令ノ正肅ニ由ルト雖モ抑モ亦民心舊税ノ
繁雜ヲ厭ヒ新法ノ簡明ヲ希望スルノ時運ニ會
スルノ致ス所ニ非ラサルヲ得ンヤ嗚呼夫ノ數
百年来紊乱スル所ノ田圖租籍悉ク整備シ經界
是ニ於テカ齊正賦税是ニ於テカ平準ナリ以テ
民産ヲ審ニスヘク以テ經濟ヲ講スヘシ然ラハ
則國家經綸ノ基本地租改正ニ由テ始テ定マル
ト謂ニ決テ溢美ニアラサル也^然尚ホ且重信切ニ
將來ニ望ム所アリ請フ其略ヲ陳セン夫地價ハ
租額ノ標準タリ而之ヲ定ルヤ原テ地位米價ニ
取ル故ニ其原質ノ狀況變換スルニ隨テ地價モ
亦改易セサル可ラス若其煩ヲ厭ヒ勞ヲ避ケ膠
柱苟モ安スルハ其弊ヤ猶昔日ノ石高^之石代

ノ類ノ如ク地位漸ク其實ニ乖キ租額隨テ其平
ヲ失フヘシ是以五年若クハ十年ヲ期シ必之カ
修正ヲ加ヘ而其租額ノ多寡財政ノ否泰ヲ斟酌
シ漸次租率ヲ節減シ下之ヲ納メテ以テ其業ニ
安ニシ上之ヲ收メテ以テ其用ニ足ルノ程度ヲ
量リ毎ニ時勢ト侏行相戾ヲサラシメハ庶クハ
聖上至仁ノ意永ク無窮ニ傳フルヲ得ン退願ノ
至ニ堪ヘス敢テ丹衷ヲ表ス頓首再拜

明治十三年十二月

地租改正事務局總裁大隈重信

太政大臣三條實美殿

訖

重信謹言今也地租改正ノ業略整頓ス茲ニ事業
ノ顛末ヲ叙シ以テ高覽ニ供ス夫本邦農ヲ以テ
本トシ財政亦地租ニ因テ以テ立ツ故ニ其盈縮
ハ國威ノ張弛ニ關シ民生ノ安危ニ係ル而從亦
税法紊亂輕重度ヲ失ス是ニ於テ明治六年地租
改正法ヲ頒布セラレ其
上諭曰賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラ
シメント其事ノ美且大ナル實ニ千歳ノ盛典ト
云ヘシ重信之ヲ總裁ニ承ケ專ラ此事ヲ管理シ
日夜只其職ニ適ハサランヲ恐ル幸ニ地方官
暨ヒ局員ノ鞠躬盡力ニ頼リ其切ヲ奏スルニ至
レリ乃耕宅地ノ地積若干租額若干山林原野雜

地租改正事務局

種地ノ既ニ成ルモノ地積若干租額若干也此地積租額ハ精細調理シ以テ確定スル所ニシテ適當緊切ナル重信ノ自ラ信認スル所ナリ抑諷法ヲ實施スル茲ニ七閱年各地方民情慣習ノ異ナル或ハ異議ヲ生シ或ハ扞格ヲ起シ其紛雜困難筆墨ノ能ク名状ス可ニ非ス加之薩匪其他ノ暴舉ノ如キ一時民心ヲ惑乱シ事業ヲ障礙スル亦勘カラス而星霜ヲ經ル僅々ニシテ能ク成業ニ至ルモノハ固ヨリ法令ノ正肅ナルニ依ルト虽氏抑亦民心旧法ノ繁雜ヲ厭ヒ新制ノ簡易ヲ望ムノ致ス所ニ非ルヲ得ン乎嗚呼數百年來紊亂スル所ノ田圖租額悉ク整備シ是ニ於テ力経界齊正賦稅平準也以テ民產ヲ審ヒスヘク財政ヲ

講スヘシ然ラハ則國家經濟ノ基本地租改正ニ由テ以テ定マルト謂モ蓋溢美ニアラサル也雖然尚且將來ニ望ム所アリ請フ其略ヲ陳セン丈地價賦稅ノ法タル封建ノ餘孽區々錯綜ナル日法ノ面目ヲ一變シ人心ノ感覺ヲ新ニセントシ當時情勢已ヲ得サルニ出ルト虽今其全キヲ求メハ地價ヲ以テ課稅ノ標目ト為ス、一、遠ナルノミナラス或ハ資本ニ賦課スルノ嫌ナキニアララス寧ろ賦稅ノ原則ニ隨ヒ入額ニ向テ賦課スルノ法ニ改良スルニ如カス其法ハ土地一歲ノ入額即收穫米麥等ノ幾分ヲ以テ稅率、一、為シ其收穫及米麥價ノ如キハ既往五年若クハ十年間豊凶昂低最モ甚シキ年ヲ除キ其他ヲ平均

シテ以テ將來數年間ノ定額ト為シ、後五年或ハ十年毎ニ之ヲ修正スヘシ而シテ稅率ハ財政ノ盈虚ヲ斟酌シ漸ク之ヲ節減シ上ハ之ヲ收メテ以テ其用ヲ足シ下ハ之ヲ納メテ以テ其業ニ安スルノ度ヲ量リ毎ニ時勢ト俟行相戾ラサラシメハ庶クハ
聖上至仁ノ意無窮ニ傳フルヲ得シ、
ヲ表ス再拜謹言

片山

重信謹テ白ス明治六年七月地租改正法ヲ頒布セラレ尋テ地租改正事務局ヲ置レ當時故大久保利通職ヲ總裁ニ奉シ鞠躬尽力局員及地方官亦其意ヲ體シ孜孜急ラス事業日ヲ逐テ擴張セントス會重信之ヲ總裁ニ承ケ其任ニ堪ヘサルヲ惟レ恐レ夙夜匪懈上聖主ノ明德トテ從事者ノ努力ニ依リ今日ノ成業ヲ見ルヲ得タリ乃テ田畑宅地若干其地租若干山林原野各種ノ地目今整頓スルモノ反別若干其地租若干惣計反別若干其地租若干凡ソ此反別租額ハ各地種ニ就テ詳細調査セシムルモノナレ、其租額ノ實地ニ適當シテ偏重偏輕ノ憂ナキハ、自テ信認

スル所也但其實地調査ノ際各地
カラサル民情ノ異ナル地種
振ルヘキナキ之ヲ統一セントスル其紛雜困難
實ニ名状スヘカラス加之十年西南變アリ物情
騷然事業ノ障碍ヲナスモノ歟トセス然ルニ着
手後数年ヲ出スレテ全國整頓ノ功ヲ奏スルノ
好結果ヲ得ルモノ民心旧法ノ繁雜ヲ改メ新法
ノ簡易ヲ希望スルノ時機ニ際會スレハナリ抑
本邦ノ財政古來地租ヲ以テ基本トス故ニ其歲
入豫定セサレハ財政得テ議スヘカラス今ヤ數
百年來紊亂スル所ノ反別精覈圖籍具備経畧茲
ニ正整賦稅茲ニ平準以テ民產ヲ詳ニスヘシ以
テ財政ヲ議スヘシ國家ノ基礎地租改正ニ因テ

始テ定マルト謂モ不可ナキナリ然レモ重信謂
ヘラク昔日ノ石高定石代當時ニ在リテハ至
ノ法タリシモ其後ニ至ツテ殆ト其弊ニ勝ス後
世ノ今日ニ於ケル今日ノ昔日ニ於ケルカ如キ
モノ莫カラントヲ欲ス後未宜シク時機ヲ慮リ
之ヲ處セラレ夫ノ土地ハ萬化ノ原ナリ其
租ヲ重クスルハ物産繁殖上ニ於テ得ズトスヘ
カラス他日財政ノ餘裕ヲ得ハ漸ク其率ヲ節減
セテ以テ聖上至仁ノ盛旨ニ違ハサラントヲ
希望ス茲ニ報告書ヲ編シ成績ノ顛末ヲ詳ニシ
以テ閣下ノ覽閱ニ供ス頓首再拜

地租改正ノ事務方ニ終ル今其顛末ヲ纂録シ之レヲ
閣下ニ上呈ス伏テ惟々該法頒布ノ始ニ當リ
上諭アリ曰ク賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラ
シメント嗚呼

聖意ノ期スル所極メテ遠大ナリ而メ之ヲ奉行シ苟モ毫
釐ノ失アル斯民ヲシテ厚薄勞逸均一ナラサル歎アラシ
メハ其責果シテ孰レニカ歸セン是レ以テ重信夙夜寅恭
其事ニ後ヒ僚屬及ヒ地方官ニ訓示スル常ニ斯心ヲ以
テ心トモシム知リ而メ田制租法ノ基源ヲ繹スルニ

奈良近江ノ朝ニ制定セラレ歷朝之レニ率由シ復更革ノ
榮イアルヲナシ降リテ鎌倉足利ニ氏ヲ經由シ旧制ハ悉ク
湮滅シ田制租法復一ニ觀ルルキモノナシ今之レヲ畫一ニ復
歸セシメントスル其艱難ナレ固リ其所ナリ況ヤ各地風土

民俗ノ異ナル或ハ杆格ノ憂ナシトモサルニ於テラヤ於是該法
奉行ノ際哀訴歎願物議百出殆ント中一止セラレントスル
勢カアリシモ勉メテ其迷謬ヲ解キ其異議ヲ排シ甚髪
屈撓セス拮据敷卷セリ幸ニ

聖恩ノ優渥ナルヲ人民漸ク感悟スル所アリ且ツ新法ノ正
肅ニシテ已ニ便ナルヲ了解シ竟ニ今日ノ結果ヲ觀ルヲ得
ルニ至レリ是皆

天皇陛下至仁ノ致ス所而メ地方諸官及僚屬ノ勉勵モ
亦興リテカマリ乃チ其計會ヲ舉レハ田畑宅地ノ段別若
干地價若干地租若干山林原野及雜種地段別若干地價
若干地租若干ヲ得而メ此負於ノ總テ著實適當ナルハ
重信深ク自ラ確信ヲ所ナリ抑モ該法頒布以來茲ニ
八年一全國ノ田圖租籍悉ク完備シ人民ノ產業區限悉

ク確定シ所謂賦之厚薄ノ弊ナク民ノ勞逸ノ偏ナキノ
域ニ達スルヲ得加フル郡國賦税ノ多寡土地ノ多寡富
凡經國ノ要皆圖籍ヲ按シテ考量ス一ニ然ラハ則經綸
ノ基於是乎始メテ確立スルト云フモ敢テ後言ニアラサル
一ニ然レニ上下始終ノ經費モ亦千萬ニ止マラス或ハ支消
ニ苦シムノ状ナキ能ハサルモナリキ重信之レヲ慮ラサルニ非
スト虫モ如何セン僅々ノ歲月以テ千餘年ノ紊亂ヲ一掃
スル勢カヒ然ラサルヲ得サルモノナリ假如若干ノ勞費ヲ要セシモ
既成ノ今日ヨリ觀レハ一勞永遠其得以テ其失ヲ償フテ
餘リアリト云ハサル一カラス然リ而メ重信此際ノ亂歷ニ由リ頗ル
將來ニ憂慮スルモノナリ蓋シ法制ハ務メテ完全ヲ求ムルト
虫モ未タ利アリ害ナキモノハアラサルナリ地租改正法ノ如キ
並法ノ旨趣固ヨリ善美ナラサルニ非スト台々今日賦運ノ

地租改正法ノ旨趣

變動波瀾を嘗てラス人民之レト進止ヲ共ニスル或ハ同軌
ニ後フ能ハサルモノアリ例セバ九年ノ際ニアリテハ農民米
價ノ下低キ苦シク嗷々改祖ヲ忌嫌セシモ今日土高ハ米
價ノ高貴キ苦シク農民ハ却テ富裕ヲ致セシノ状アルカ如ク
新法ノ一方ニ便ナルハ復一方ニ不便ヲ来タサハ能ハス
隨テ物情ノ變遷好悪ノ轉倒實ニ意匠ノ外ニ出ワル
モノ寡シトセス故ニ農民ハ嘗て十餘年来ノ羈絆ヲ脱
シテ始メテ人理普ニ通ノ自由ヲ得ルト魚モ自己ニ於テハ
未タ其真ニ然レノ理由ヲ認メサルニ士高ノ徒ハ蚕ク既ニ農
夫ノ獨リ利潤アルヲ羨ミ該法ノ過失トスル世間其人ナシ
トセス此利害ノ冬錯殆ニト糾纏ノ如キモノナリ後人或ハ
其真理ヲ察セス偏聽以テ切リニ取捨セハ其反動ノ勢恐ク
不測ノ變ヲ醸成セン假令將來地租ヲ増損スルノ止ムヲ得

カレ場合アルモ極メテ縝密經理シ輕率之レテ變動セサラ
シトト寧々重信カ切望スル所ナリ也リト魚モ一定ノ規矩ヲ
墨守スルシト云フニ非ス彼地價ノ如キ地理ノ變換時勢ノ移
動ニ由リ固リ其昂低ナキヲ保タサレハ苟モ之レカ修正ヲ
怠ルハ其弊ヤ猶昔日ノ石高定石代ノ如ク名實相副ハ
サルニ至リ竟ニ平準ヲ失スル故ニ時々之レヲ彌縫シ之レ
ヲ修正スルハ蓋シ役事者其責ニ任セサルヲ得ス之レヲ
要スルニ地租ハ主トシテ農民ノ負擔スル所國家ノ元氣ニ係レ
ハ務メテ其力ヲ逐養シ國帑ノ餘裕アルニ至ルハ租率
ヲ節制シ永ク其元氣ヲ培植セハ庶幾ハ
聖上至仁ノ恩惠ヲ施テ永ク無窮ニ傳播スルヲ得ニ重
信愷切惇祈ノ至ニ堪ヘサルナリ

